

読書のすゝめ

その9 H 29 5 / 29

第63回青少年読書感想文全国コンクール課題図書

読んで世界を広げる、書いて世界をつくる。



定期考査が終了し、ほっと一息ついたところでしょうか。さて、青少年読書感想文全国コンクールの要項が発表になりましたので、課題図書の紹介をします。

※課題図書とは？

読書感想文コンクールの主催者が指定した本を読んで書くのが「課題読書」です。本の専門家の先生方が、新しく出版されたたくさんの中から、年齢に合わせて、多くの感動を得られたり新たな知識を得られたりする本を、フィクション、ノンフィクション、外国作品などから選ぶものです。ぜひ読んでみてください。

(全国学校図書館協議会HP参照)

『フラダン』 古内一絵 (小峰書店)



女子率100パーセントのフラダンス愛好会に集められた4人の男子高校生。その目的は男女混合によるフラガールズ甲子園出場だった！
震災から5年後の福島を舞台にしています。しかし、不幸を背負い込みながらも、周りに流されず、自分に気持ちに正直に生きようとする若者のとびきりの笑顔と涙の青春ストーリーになっています。

『ストロベリーライフ』 萩原浩 (毎日新聞出版)



イチゴ農家を継げと迫る母親。猛反対の妻。志半ばのデザイナーの仕事はどうする!? 夢を諦めるか。実家を捨てるか。恵介36歳、いま、人生の岐路に立つ！
農業なんてかっこ悪い。と思っていたはずだったが、つぶれかけたイチゴ農家と家族の再生を賭けて、ど素人の長男がイチゴづくりに挑む。

『犬が来る病院』 大塚敦子 (KADOKAWA)



聖路加国際病院は、日本で初めて小児病棟にセラピー犬の訪問を受け入れた医療機関です。本書は、著者がそこにおよそ3年半にわたり取材した中で、出会った4人の忘れがたい子どもたちの生死を通して描いた感動のノンフィクションです。亡くなった子どもたちは、短い人生の最後の日々をどう生きたのか。また、退院した子どもたちは、小児病棟での日々から自分の人生に、どのような影響を受け今を生きているのか。入院中であっても、子どもたちが豊かな時間を過ごし、困難を乗り越えていけるように、医師や看護師、保育士、心理士、チャプレン(病院等で働く牧師)など数多くのスタッフ、4人の子どものたちを通して描いた記録。

フたちで行われる取り組みについて、
※わかったこと、気づいたこと、感じたことを「行動(実行)」して、自分の思いを「実現」できることが、重要なことです。1・2年次生は夏休みの宿題になりますので、ちよつと早いです。ぜひ参考にして準備をすすめてください。

※来月は学校全体で購入図書希望調査をします！
クラス掲示の希望用紙に記名して申し込んでください。